

総合的な探究の時間の研究開発校に指定される！ 本校は全般的な研究を

神奈川県教育委員会は10月1日に県立高校改革Ⅱ期計画案を発表しました。Ⅰ期計画案は平成27年12月に発表され、本校は総合学科から普通科に改編されることになり、現在に至っています。今回のⅡ期発表のなかで、本校はⅠ期計画の追加で、「総合的な探究の時間」研究開発校に指定されました。

次期学習指導要領が本年3月に告示され、そのなかで「総合的な学習の時間」が、「総合的な探究の時間」に変更され、さらに平成31年度から先行実施されます。それに合わせて県教育委員会は、本校など10校を研究開発校として指定しました。研究開発校のうち本校と市ヶ尾、藤沢西、秦野総合、大和は全般的な研究、川崎、舞岡、横須賀明光、山北、有馬はSDGsをテーマにした研究を行うこととなります。因みにSDGs(Sustainable Development Goals)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

文部科学省は、7月に総合的な探究の時間に関する解説(「高等学校指導要領解説 総合的な探究の時間編」)を出しています。そこには改訂趣旨が記されています。「…、高等学校においては、小・中学校における総合的な学習の時間の取組の成果を生かしつつ、より探究的な活動を重視する視点から、位置づけを明確化し直すことが必要と考えられる。」と記され、さらに改訂の基本的な考え方では「各教科・科目等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的・統合的に働かせることに加えて、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら「見方・考え方」を組み合わせる統合させ、働かせながら、自ら問いを見だし探究する力を育成するようにした。」と記しています。

小・中学校では「総合的な学習の時間」を変更しないのに、なぜ変更されるのでしょうか。文部科学省等の調査では、高等学校の場合、総合的な学習の時間を進路指導や学校行事の準備などに充てている学校があること、全校的な取組になっていないこと、物事の本質を探究する内容になっていないこと、教科横断的な学習や課題発見・解決までに至っていないこと、小・中学校と比較すると学習活動が低調であること、などの理由といわれています。

本校は、総合学科の設立時から、1年次に「産業と社会」、2年次に「コミュニケーション」「視点」、3年次に課題研究の「探求」という科目を配置し、キャリア教育のなかでコミュニケーション能力を育んできました。普通科になってからは「総合的な学習の時間」で引き続き、総合学科で培ってきたキャリア教育を発展させてきました。特に、1年次にはインターンシップやインタビュー実習、2年次には(株)教育と探求社のクエストエデュケーションプログラムを採用するなど、他の普通高校にはない「総合的な学習の時間」を展開してきました。この教育活動の実績が、今回の指定に繋がったのだと思います。

「総合的な探究の時間」のみならず改訂学習指導要領では、教科「理数科」に「理数探究基礎」「理数探究」を開設することができ、地歴科には「日本史探究」「世界史探究」「地理探究」が、国語科には「古典探究」という科目が設置されます。今回の学習指導要領では、探究型の学習とアクティブ・ラーニングの視点を持った授業が、生徒のキャリア形成に大きな役割を果たします。生徒の先にある社会や未来が自分とどう関わるのかを考えることとなります。それは、自分が学習したものをとおして社会と、どのように関わるのかを考えるからです。

今回の改訂学習指導要領では、普通科において「総合的な探究の時間」をいかに推進するのか。それが大きな課題とされています。本校では、既存の「総合的な学習の時間」を継承しつつ、いかに学習指導要領の趣旨を活かし、発展させるかが、研究開発校としての本校のミッションではないかと思っています。



サポートティチャーに平戸先生が着任

9月の新学期からサポートティチャーに平戸明彦先生が着任しました。7月まで在籍していた高山千佳子先生は、お仕事の都合で退任されました。高山先生、いろいろありがとうございました。

平戸先生は大手予備校でチューターや校舎長を歴任し、本校では進路相談、科目選択、入試スケジュール作成、ポートフォリオ作成、学力向上相談、模擬面接、作文指導など、進路全般についての業務を担当していただきます。

挨拶

大手予備校で32年間進学教育に情熱をそそいできた「合格請負人」としての経験を活かし、身近な大人として自己の目標や夢の実現に向けてチャレンジする横浜清陵高校生徒諸君のプライドの醸成と、キャリアビジョンの実現に貢献できれば幸いです。

また、このサポート活動により、さらなる横浜清陵ブランドを向上させる一助になれば本望です。まずは気軽にご来室願います。

何とぞよろしく願いいたします。